

JIS

溶接構造用圧延鋼材

JIS G 3106 : 2024

(JISF)

令和 6 年 2 月 20 日 改正

認定産業標準作成機関 作成・審議

(日本規格協会 発行)

一般社団法人日本鉄鋼連盟標準化センター 鋼材規格三者委員会（産業標準作成委員会） 構成表

| | 氏名 | 所属 |
|--------|--------|------------------------------|
| (委員長) | 榎 学 | 東京大学 |
| (副委員長) | 緒形 俊夫 | 国立研究開発法人物質・材料研究機構 |
| | 田中 龍彦 | 東京理科大学名誉教授 |
| | 藤原 弘次 | EMF 応用計測 |
| (委員) | 林 央 | 元国立研究開発法人理化学研究所 |
| | 沖 佑典 | 国立研究開発法人建築研究所 |
| | 桑原 利彦 | 東京農工大学大学院 |
| | 富山 禎仁 | 国立研究開発法人土木研究所 |
| | 森山 勉 | 一般社団法人日本アルミニウム協会 |
| | 堤 紳介 | 一般財団法人日本規格協会 |
| | 熊井 勝敏 | 日本検査キューエイ株式会社 |
| | 藤井 勉 | 一般社団法人日本試験機工業会 |
| | 栗原 正明 | 一般社団法人日本伸銅協会 |
| | 小野 昭紘 | 公益社団法人日本分析化学会 |
| | 藤田 栄 | 北海道大学 |
| | 山口 栄輝 | 公益社団法人土木学会（九州工業大学） |
| | 種物谷 宣高 | 高圧ガス保安協会 |
| | 山田 哲 | 一般社団法人日本建築学会（東京大学大学院） |
| | 小野田 光芳 | 線材製品協会（日鉄 SG ワイヤ株式会社） |
| | 松本 和幸 | 一般財団法人日本海事協会 |
| | 辻村 寿彦 | 日本金属継手協会 |
| | 桜井 英裕 | 一般社団法人日本鋼構造協会 |
| | 近藤 隆明 | 一般社団法人日本自動車工業会（日産自動車株式会社） |
| | 相川 卓洋 | 公益社団法人日本水道協会 |
| | 河口 誠司 | 一般社団法人日本機械工具工業会（株式会社不二越） |
| | 富永 公彦 | 一般社団法人火力原子力発電技術協会（三菱重工業株式会社） |
| | 酒井 英典 | 株式会社神戸製鋼所 |
| | 中澤 晋 | JFE スチール株式会社 |
| | 尾郷 顕 | 大同特殊鋼株式会社 |
| | 荒井 和弘 | 日本製鉄株式会社 |

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 27.11.25 改正：令和 6.2.20

担 当 部 署：経済産業省産業技術環境局 国際標準課

(〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1)

官 報 掲 載 日：令和 6.2.20

認定産業標準作成機関：一般社団法人日本鉄鋼連盟

(〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館 TEL 03-3669-4826)

審 議 委 員 会：一般社団法人日本鉄鋼連盟標準化センター 鋼材規格三者委員会（産業標準作成委員会）

(委員長 榎 学)

この規格についての意見又は質問は、上記認定産業標準作成機関にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに見直しが行われ速やかに確認、改正又は廃止されます。

目 次

| | ページ |
|---|-----|
| 序文 | 1 |
| 1 適用範囲 | 1 |
| 2 引用規格 | 1 |
| 3 用語及び定義 | 2 |
| 4 種類の記号及び適用厚さ | 2 |
| 5 化学成分 | 2 |
| 6 熱処理及び熱処理の記号 | 3 |
| 6.1 熱処理 | 3 |
| 6.2 熱処理の記号 | 3 |
| 7 溶接性 | 4 |
| 7.1 溶接性の一般事項 | 4 |
| 7.2 炭素当量 | 4 |
| 7.3 溶接割れ感受性組成 | 4 |
| 8 機械的性質 | 5 |
| 8.1 降伏点又は耐力，引張強さ及び伸び | 5 |
| 8.2 シャルピー吸収エネルギー | 7 |
| 9 形状，寸法，質量及びその許容差 | 7 |
| 10 外観 | 7 |
| 11 試験 | 7 |
| 11.1 分析試験 | 7 |
| 11.2 機械試験 | 8 |
| 12 検査 | 9 |
| 13 再検査 | 9 |
| 14 表示 | 9 |
| 15 注文者によって提示される情報 | 10 |
| 16 報告 | 10 |
| 17 熱間押出形鋼の品質規定 | 10 |
| 18 異形平鋼の品質規定 | 10 |
| 附属書 JA（規定）受渡当事者間で協定した鋼板の化学成分及び引張試験特性 | 11 |
| 附属書 JB（規定）辺が 40 mm 未満の形鋼及び幅が 40 mm 未満の平鋼の引張試験特性 | 13 |
| 附属書 JC（規定）熱間押出形鋼の品質規定 | 14 |
| 附属書 JD（規定）異形平鋼の品質規定 | 18 |
| 附属書 JE（参考）JIS と対応国際規格との対比表 | 23 |
| 解 説 | 25 |

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 14 条第 1 項の規定に基づき、認定産業標準作成機関である一般社団法人日本鉄鋼連盟（JISF）から、産業標準の案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS G 3106:2022** は改正され、この規格に置き換えられた。

なお、令和 7 年 2 月 19 日までの間は、産業標準化法第 30 条第 1 項等の関係条項の規定に基づく JIS マーク表示認証において、**JIS G 3106:2022** を適用してもよい。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

溶接構造用圧延鋼材

Rolled steels for welded structure

序文

この規格は、2021年に第2版として発行されたISO 630-1、第3版として発行されたISO 630-2及び第2版として発行されたISO 630-3を基とし、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で、附属書JA～附属書JDは、対応国際規格にはない事項である。また、側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、附属書JEに示す。

1 適用範囲

この規格は、橋梁、船舶、車両、石油貯槽、容器その他の溶接構造物に用いる熱間圧延鋼材（以下、鋼材という。）及び熱間押出形鋼であって、特に溶接性の優れたものについて規定する。

なお、熱間押出形鋼及び異形平鋼の品質規定を、それぞれ附属書JC及び附属書JDに規定している。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 630-1:2021, Structural steels—Part 1: General technical delivery conditions for hot-rolled products

ISO 630-2:2021, Structural steels—Part 2: Technical delivery conditions for structural steels for general purposes

ISO 630-3:2021, Structural steels—Part 3: Technical delivery conditions for fine-grain structural steels（全体評価：MOD）

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS G 0201 鉄鋼用語（熱処理）

JIS G 0202 鉄鋼用語（試験）

JIS G 0203 鉄鋼用語（製品及び品質）

JIS G 0320 鋼材の溶鋼分析方法

JIS G 0404 鋼材の一般受渡し条件

JIS G 0415 鋼及び鋼製品—検査文書

JIS G 0416 鋼及び鋼製品—機械試験用供試材及び試験片の採取位置並びに調製